

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

- 児童
 - ・基礎学力定着のための全校的な取組を継続させ、学力調査の通過率を向上させる必要がある。
 - ・学習意欲・学習規律・生活指導等、特別支援教室での指導が必要な児童が複数名いる。
- 教職員
 - ・学校経営計画に添って一人一人が努力しミドルリーダーに協力して取組むことができる。
 - ・経験年数が少ない教員が多いが、足立スタンダード（課題解決）授業の実施に努力している。
 - ・教職員の入れ替わりが多く、学習指導・校務分掌等において組織的に取組む必要がある。
- 保護者
 - ・学校の教育活動に対して協力的な保護者が多い。
 - ・基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化等において学校の関与が必要な家庭が多い。

[前年度の成果と課題]

- 児童
 - ・学力向上策・補充学習等により基礎学力が向上した。その力を維持させることが課題。
 - ・大勢の前で堂々と発言できる自信や自己表現力を育てることが課題である。
 - ・分かる授業と補充学習等により基礎学力定着を図ることが課題である。
- 教職員
 - ・小中連携研究授業・巡回指導（教科指導専門員）等により、授業力が向上してきた。
 - ・若手教員が多く経験が乏しいため見通しがもてない。必要な情報提供が課題である。
 - ・指導力向上に向けた指導・助言と、メンタルケアや働き方改革の両立が課題である。
- 保護者・地域について
 - ・地域・保護者は、挨拶運動・地域行事に協力し地域ぐるみで子供を育てようとしている。
 - ・PTA活動では、スポーツや学年活動が活発で、教員と保護者の連携が取れている。
 - ・学校と家庭や地域での子供の様子の違い等、SC等を活用して共通理解する必要がある。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

- 扇小の学力向上は、1 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施 2 読書活動の推進
3 そだち指導員と学習支援員、特別支援教室が連携した個別指導の充実の三つで取り組んだ。

1. 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施

- ①平成30年度区学力調査目標通過率（学校平均）75%以上
- ②4月にH30年度問題で調査 → 結果分析による前年度学習内容の補習（B補習）
- ③9月にH30年度問題で再調査 → 単元テスト分析ソフトによる現学年学習内容の補習（A補習）
- ④12月にH30年度問題で1学年上の問題で調査。→未習事項の授業、2月テストに向けた現学年内容の補習
- ⑤2月にH30年度問題で1学年上の問題で再調査。 次年度テストに向けた現学年内容の補習

2. 読書活動の推進

- ①年間読書目標：1～3年80冊・4～6年6,000頁・以上が50%
- ②毎週1回、図書ボランティア（退職教職員）を図書室に常駐させ、読み聞かせ・読書活動を活発にさせる。
- ③図書委員会活動の充実、読書月間・旬間・読書バイキング、図書館蔵書の巡回貸し出し等の継続と改善。

3. そだち指導員と学習支援員、特別支援教室による個別指導の充実

- ①目標：3・4学年の正答率50～70%の児童全員が、そだち教室を卒業する。
- ②1～6学年は学習支援員の活用・特別支援教室を利用して学習指導の効果を高め、目標値を達成。

重点的な取組事項－2 児童の自己肯定感の醸成

1. 児童の活動、活躍の賞揚（「生活がんばりカード」やふれあい月間調査で良い項目を70%以上）

- ①全校朝会で、児童・保護者・教職員の活躍を全校紹介
- ②善行青少年顕彰と関連して、模範的な児童の校内推薦

2. 自己実現・発表の場を設ける。

- ①各学級1回以上、音楽や音読発表など、全校児童の前で表現することにより自己有用感を高める。

3. 外部講師による体験活動を実施

- ①全学年で1回以上の体験活動を行う。オリンピック・パラリンピック教育も含む。
- ②外部専門家講師の授業を行う。（落語・手話・点字・スポーツ選手、地域の優れた人材等）

4. 近隣中学生との交流を通じて、学校地域への郷土愛の醸成

- ①扇っこまつり（小学校行事）への生徒招待。中学校行事への児童参加を学校間で連携して実施。

重点的な取組事項－3 教員の授業力の向上

1. 足立スタンダード型の授業づくり研究、研修

- ①年間3回以上の授業観察を基に管理職と教科指導専門員が授業観察を行い、指導し改善させる。

2. 5年目以下の若手研修会を実施

- ①小中連携授業、ブロックや校内で若手の授業研究を行う。

3. 区内外の教育研究会への参加促進

- ①区小研への参加80%、各年次研への参加100%、区内外の教育研究会等へ2回以上参加し、伝達講習の実施。

重点的な取組事項－4 小中連携

1. 小中教員相互の連携（扇小-江北桜中、高野小、江北小 の4校）

- ①合同研修会（全体会・授業研究等）を年間7回以上行う。
- ②児童生徒の実態や課題を共有し、互いの生活指導や特別支援教育等の教育活動に生かす。

2. 児童生徒相互の連携

- ①江北桜中学校との交流を年間3回以上行う。中学校が統合初年度のため、年度途中の提案あり。

3. 生活指導の連携

- ①交通安全・生活安全について小中で共通した指導を行う。
- ②課題（生活指導や特別支援）のある児童生徒を共通理解し、指導に生かす。

4. 地域・PTA相互の連携

- ①地域行事、PTA主催行事に児童延べ100人派遣。小中連携講演会等に延べ10人以上の教員参加。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－ 1 学力向上

- 扇小の学力向上は、1 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施 2 読書活動の推進
- 3 そだち指導員と学習支援員、特別支援教室が連携した個別指導の充実の三つで取り組んだ

<成果>

1. 足立区学習定着度調査の複数回実施と計画的な補充学習教室の実施
 - ①区学力調査目標通過率は、4月 は目標の75%以上を下回り69.3%であったが、9月に79.9%まで回復した。
 - ②教科指導専門員による巡回指導になり、国語・算数の足立スタンダード型授業について繰り返し指導を受けて若手教員の授業力が向上してきている。
 - ③学力向上校内委員会の活動が活発化し、取組みの提案や実施状況の調査などを積極的に行った。現状把握と対策の立案の中心的な役割を果たせるようになった。
2. 読書活動の推進
 - ①年間読書目標を昨年同様にした。目標であった50%以上の児童が達成した。図書ボランティア等の活動が充実した成果である。
3. そだち指導員と学習支援員、特別支援教室が連携した個別指導の充実
 - ①そだち指導を受けた3・4学年24名の児童全員が、そだち教室を卒業できた。
 - ②学習支援員による個別指導や特別支援教室での指導により、担任が授業を展開しやすくなった。

<課題及び解決の方向性>

- ・学力定着指導員と非常勤教員の配置がなくなり、主に前学年の学習内容を扱う「B補習」の実施者が少なくなったため、奇数・偶数学年に分けて補充学習を行った（回数が少なくなった）。時間と担当者の確保が課題である。教科指導専門員は毎日勤務しないことや補充学習を担当できないことを踏まえて、新しい指導体制を構築していく。
- ・学校全体の傾向は依然として、漢字や言語事項・文章記述、繰り上がりや繰り下がりのある計算・文章題の題意を正しく読み取り立式することなどである。単元テストや観点ごとの習得状況を細かく分析し、補充学習を充実させていく。また、学んだことを維持しにくい傾向があるので、宿題提出や漢字マスターなどのアクションプラン（別紙）を確実に実施していく。
- ・29年度末において、「そだち指導」の考え方を生かし、学区力テストの正答率50～70%の児童を抽出して補充学習を充実させた。補充学習を行った児童は学力が向上・学習内容が定着したが、ぎりぎり抽出されなかった児童（正答率80%程度）の中に、4月調査の結果がふるわなかった児童が見られた。抽出児童の正答率の範囲を広げて、目標値通過を継続させていく。

重点的な取組事項－ 2 自己肯定感の醸成

<成果>

1. 児童の活動、活躍の賞揚（「生活がんばりカード」やふれあい月間調査で良い項目を70%以上）
 - ①「今月の俳句」の取り組みで「校長賞」を選び、毎月児童を表彰することができた。
 - ②善行青少年顕彰では、空手・俳句（自主的に応募）の分野で表彰していただくことができた。
2. 自己実現・発表の場を設ける。
 - ①学年ごとに発表日を決め、音楽や音読発表などの内容を全校児童の前で表現することができた。
3. 外部講師による体験活動を実施
 - ①全学年で体験活動を行った。外部専門家講師による落語・手話・点字・俳句等の学習は継続している。
 - ②ブラインドサッカー・陸上（浅井えり子氏）について、新しい外部指導者と連携することができた。
4. 近隣中学生との交流を通じて、学校地域への郷土愛の醸成
 - ①扇っこまつり（小学校行事）に中学生を招待し、吹奏楽の発表や模擬店補助等で連携・交流した。

<課題及び解決の方向性>

- ・大勢の前では大きな声で返事したり、堂々と自己表現したりすることが苦手な児童が依然として多い。学年学級発表を年間計画に位置づけ、各学年の学習内容とも関連づけることにより表彰活動や表現活動をさらに工夫させ、継続・発展させていく。

重点的な取組事項－３ 教員の授業力向上

<成果>

1. 足立スタンダード型の授業づくり研究、研修

①年間3回の授業観察・指導を通して「分かる授業」の実践に向けて授業改善させた。

2. 5年目以下の若手研修会を実施

①小中連携授業では全ての教員が指導案作成・学習指導に関わり、9年間の学びの連続性について理解を深め、5つの分会で授業研究を行った。

②小中連携の授業研究とは別に、校内教員だけの授業研究会を2回行うことができた。教材研究の楽しさや事前準備を充実させることの必要性の再認識につながった。

3. 区内外の教育研究会への参加促進

①区小研への参加80%、各年次研への参加100%を堅持し、区内外の教育研究会への参加を推奨した。

<課題及び解決の方向性>

・校内に模範となる教員がいるので互いの授業を参観し合うように「チェックシート」を作成したが、実際に参観できた回数は多くはなかった。授業参観によるOJTの計画を週案等に明記させ・実施していく。

重点的な取組事項－４ 小中連携

<成果>

1. 小中教員相互の連携

①扇小-江北桜中、高野小、江北小の4校での連携となり、2年目である。分科会をひとつ増やしたり特別支援巡回教員も加えたりと、さらに合同研修会を充実させることができた。グループ4校の教員間のコミュニケーションもスムーズになり、9年間の学びの連続性について活発な意見交換ができた。

②保健部会に特別支援巡回教員が加わり、児童生徒の実態や課題を共有したり、互いの教育活動に生かすための研修会を行ったりすることができた。

2. 児童生徒相互の連携

①江北桜中学校（統合2年目）との交流を昨年度と同様に行うことができた。

3. 生活指導の連携

①課題のある児童生徒について養護教諭やSC・SSW、特別支援巡回教員を窓口として共通理解し、指導に生かすことができた。

4. 地域・PTA相互の連携

①地域行事、PTA主催行事に児童・教員を大勢参加させることができた。

<課題及び解決の方向性>

・合同研修会や連携事業を行う期日や場所について、調整が難しい面があった。それぞれの年間計画を持ち寄って連携事業の候補日を早めに検討・決定していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

・保護者・地域の皆様、扇小学校の教育活動へのご理解・ご協力に感謝申し上げます。特に、学力向上を支える学級経営の安定についてご心配をおかけしましたが、おかげさまで平成30年度の教育活動をほぼ予定通り実施することができました。これからも「知・徳・体」のバランスのとれた子供を、力を合わせて育てていきたいと考えます。

・平成31年は、扇小学校は立50周年の年です。これまでの半世紀にわたる卒業生や在籍職員、地域の皆様の営みを振り返るとともに、次の半世紀に向けて扇小学校をますます発展させていきたいと思っております。今後も、卒業生・地域の皆様が扇小学校を「出身校・地元の学校」として誇りに思っただけのように、職員が一丸となって努力していきます。50周年記念事業へのご協力もよろしくお願い申し上げます。

・学齢期の子供にとって「本物に触れる」機会はとても重要です。この地域で豊かな体験ができる場所や体験活動を指導できる方の情報がありましたら、積極的に学校にお知らせください。扇小学校の卒業生には、野球やサッカー、トランポリンなどで全国的・世界的に活躍している方もいます。子供たちが自分の将来像のイメージをもつためにも、関係者と地域の力を結集できたら幸いです。

・これからも、扇小学校に対する温かく厳しいご助言・応援をいただけますよう、宜しく申し上げます。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|----------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----|
| 児童の基礎的学力の定着を図る | 区学力調査 通過率75%以上 | 4月-9月-12月-2月 目標通過率 国語 70.8%-81.4%-47.9%-78.4% 算数 67.8%-78.3%-43.2%-74.7% 全体 69.3%-79.9%-45.6%-76.6% <29年度> 国語 81.6%-86.2%-74.5% 算数 78.1%-83.4%-70.8% 全体 79.9%-84.8%-72.7% | 4月の調査では目標に届かなかった。その後の補習により、児童の基礎学力が定着してきている。現学年内容の定着では目標を達成したい。 | ○ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-------------------------------|------|--------|------|---------|-----|
| 別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照 | | | | | |

重点的な取組事項－2 自己肯定感の醸成

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|----------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-----|
| 児童が自らと扇小に対する自尊感情を育む。 | 児童の生活がんばりカードやふれあい月間調査で良い項目を70%にする。 | 児童の「生活がんばりカード」において、25問中17問以上に肯定的な回答をした割合は、低学年74%、高学年70.7%である。 | 肯定的な回答ができなかった項目について、児童の生活環境を整えたり、学習意欲が高まるようにしたりしていく。 | ◎ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-----|
| 全校朝会等での児童、保護者、教職員の活躍を賞揚 | 機会ごとに全校朝会等で表彰、賞賛、善行紹介を行う。 | 児童に加え、保護者、教職員も含め表彰、称揚する機会を全校朝会時に実施。 | 今月の俳句」は各教室で表彰した。朝会では、各種大会・コンクール等の表彰を毎月行った。 | 地域で児童が良い取り組みをできるように、今後も積極的に紹介する。 | ◎ |
| 自己実現・発表の場を設ける。 | 学級を単位として、全校児童の前で堂々と表現できる。 | 各学級1回以上、音楽や音読発表など、全校児童の前で表現する機会をつくる。各学級では、発表日に向けて発達段階に応じた表現力の育成に励み、児童一人 | 木曜日の児童集会に加えて、月曜朝会の時間も活用した。発表する月日を決め、計画的に取り組むことができた。各学級（または学年合同）が発表をする | 発表に向けた練習も充実していた。これらの経験を積み重ね、「堂々と」発表できる子供を育てていきたい。 | ◎ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----|
| | | 一人の自己有用感を高めることにつなげる。 | ことができた。 | | |
| 外部講師による体験活動を実施。 | 全学年で1回以上の体験活動を行う。オリンピック・パラリンピック教育としても体験活動を取り入れる。 | 外部専門家講師による授業を行う。(落語・手話・点字・スポーツ選手等)東京都や地域の諸団体の出前授業に応募する。地域の優れた人材を見つけ、講師として体験活動を指導してもらう。 | 1年：読み聞かせ 2年：農作物収穫 3年：俳句教室 4年：落語・点字・手話教室、 5年：ブライントサッカー 6年：薬物乱用防止 全校：ランニング教室 | 専門家の指導による各種体験活動を実施。本物に触れる経験を学習に生かすことができた。 | ◎ |
| 近隣中学生との交流を通じて、学校地域への郷土愛の醸成。 | 児童生徒交流の場を設定。 | 扇っこまつりへの生徒招待。中学校行事への児童参加を学校間で連携して実施。 | 扇っこまつりに中学校吹奏楽部が出演。他にもボランティアとして中学生が参加。6年生が体験入学・部活動体験に参加。 | 小中学校が連携できた。子供たちの交流を深め、郷土愛の醸成につなげることができた。 | ◎ |

重点的な取組事項－3 教員の授業力向上

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 足立スタンダードの定着(国語・算数を中心に) | 「足立スタンダード」を基本として、教員の授業、児童の授業の構えを全校統一で行う。 | 若手教員を中心にして、国語・算数の足立スタンダード研修を全教職員が参加して行った。 | 教員経験5年以下・新規採用教員を中心に、教科指導専門員による授業観察・指導を行った。また、全教員が授業参観チェックリストを活用して、相互にアドバイスをした。 | ○ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|------------------------|---------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----|
| 教員に授業公開と指導法の工夫に取り組ませる。 | 「足立スタンダード」をもとにした授業を行わせる。 | 年間3回以上の授業観察を基に管理職と教科指導専門員が授業観察・指導を行い、報告書に基づいて改善させる。 | 毎月1回以上、国語・算数の教科指導員による授業観察・指導を実施した。管理職は報告書に基づいて、授業改善に向けた指導を行った。 | 授業を参観するだけでなく、指導案を作成する段階から指導員が丁寧に教えているため、授業力が高まってきている。 | ○ |
| ブロック内で若手研修会の実施 | 新採教員と5年目以下の教員を対象に授業研修会の実施 | 新規採用教員はe-learning、足立スタンダードを研修させる。5年目以下教員は | 小中連携の授業研修会や校内研究会において3名の5年目以下の教員が授業を | 小中連携の分科会が少ないため、公開授業の人数は制限 | ○ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----|
| | 施。 | 小中連携の授業研究等、年間2回実施。 | 公開し協議会も実施した。 校内で相互授業参観・助言を10回以上行った。 小中連携授業研究とは別に、算数・体育の授業研究を行い、足立スタンダード以外の内容についても全校で研修できる機会を計画している。1月・2月に授業研究を実施する予定。 | される。 不足分を校内における相互授業参観で補った。 足立スタンダードの内容以外について校内研究で学びたいという教員の意欲により、授業研究を追加した。 | |
| 教育研究会への参加 | 区小研への参加80%、各年次研への参加100%、区内外の教育研究会(発表会)へ2回以上参加 | 区小研、各年次研参加は原則悉皆、区内外の研究会等を掲示、教科主任には指導教諭公開授業等、直接提示し参加させる。 | 毎月の区小研への参加は90%以上。 各教科主任には指導教諭による模範授業公開に参加させるとともに、校内での伝達講習を行わせている。 | 区小研の部会に継続して参加する事の意義を繰り返し指導した。 各部が発行する事前案内や研修記録を配布し、参加意欲や研修内容の理解につなげている。 | ○ |

重点的な取組事項－4 小中連携（扇小－江北桜中、高野小、江北小）

| 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 基礎学力の定着をめざした指導法の研修や、生活指導上の課題解決に取り組み、中一ギャップ解消に向けて9年間の学習・生活指導の流れをつくる。また、各校種毎に教員の授業力向上を図る。 | 中学校が統合新校（2年目）のため、種々の交流の機会を作り、年間20回以上を目標とする。 | 教職員の小中連携事業について10回。扇っこまつりや江北桜祭など、PTAや地域の行事への参加も含めて交流事業に10回以上参加した。 | 昨年度から江北桜中学校・高野小学校・江北小学校との連携となった。今年度も継続・発展した内容にすることができた。教員・児童生徒・保護者・地域の方々の連携が図られている。 | ○ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------|-----|
| 小中教員相互の連携 | 授業力向上のための研修会・授業研究を年6回以上行う。 また、生活指導や特別支援に関する情報交換を密にする。 | ① 合同研修会（全体会・分科会・講演会・授業研究・連絡会）を行う。児童生徒理解、教科の系統性や連続性の確認、足立スタンダードによる授業の実施。 | ① 合同研修会を8回計画し、これまでに6回行い、小中相互の学校公開期間中の教員による授業参観もした。 | 昨年度の反省を生かして分科会を増やした。 | ◎ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| | | ②研究授業公開を小中4校が各1回ずつ実施し、各教科領域の相違性や連続性の理解を深め、円滑な接続を目指す。 ③ 児童生徒の学力や特別支援・教育相談等の情報を交換し、個別指導に生かす。 ④ 入学予定児童の状況を伝え、中学校での個別指導の資料とする。生活指導面での円滑な接続を目指す。 | ② 小中合同の6分科会を編成し、各分科会提案による授業研究を4回行った。 ③ 保健部会に特別支援教室担当教員を加えて、生活・健康・特別支援等に関する情報交換を行った。 ④ 「中一ギャップ」を軽減するため、小中連絡会を行い、様々な分野の情報を伝え、それぞれの生活指導に生かす。 | 各小学校に特別支援教室を設置したので、保健部会に特別支援教室担当の教員を加え、特別支援の観点からも情報交換を行っている。 教科の系統性・連続性を意識し、他校種理解が深まってきた。小中の教員が一緒に指導案を作成・協議することの効果である。 | |
| 児童生徒の連携 | 児童生徒の交流を年3回以上 | ①サマースクール補助に生徒を要請する。 ②小学生が中学校運動会の参観や競技参加できる機会を設定。 ③小学生が中学校文化的行事を参観する。 ④生徒会役員が小学校に来校し、学校紹介・説明会を行う。 ⑤部活動体験会に6年生が参加する。 | ①毎回2,3名の生徒が参加し、指導補助を行った。 ②江北桜中運動会を児童が参観した。 ④ 江北桜祭を参観した。 ④「中学校生活説明会」を開催予定。 ⑤部活体験会に6年生が参加した。 | サマースクールの指導補助や運動会・合唱コンクール等の参観については、昨年度同様に連携することができた。 | ◎ |
| 生活指導の連携 | ①交通安全・生活安全について小中で共通した指導を行う。 ②課題のある児童生徒を共通理解し、指導に生かす。 | ①生活指導部を中心に、発達段階に応じた内容・方法で、統一した指導を行う。 ②定期的に生活指導上の情報交換・合同研修会を行う。 | ①生活指導部を中心に、問題行動に適切な対応をすることができた。 ②小中連絡会の他、毎月、生活指導上の情報を交換している。特に個別のケース会議において、担当SSW等の専門家と共に会議を行った。 | 生活指導面で中学校と連携して対応する事案は少なかった。特別支援や不登校傾向のある児童生徒への指導については、ケース会議の開催等を行い、連携を強化することができた。 | ○ |

| 目標実現に向けた取組み | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 地域やP T Aの連携への協力 | 地域行事、P T A主催行事に児童延べ 100 人派遣する。また、小中連携講演会等に延べ 10 人以上の教員を参加させる。 | 小中学校P T A主催行事、地域行事に教員、児童を積極的に参加させ、地域・P T A・教員・小中学生との交流を深め、地域の見守りのもと、小学校から中学校へ円滑に進学できる環境をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・荒川ウォークラリー 10 名 ・ビーチボールバレー大会 25 名 ・ふれあいクリスマスコンサートに 42 名参加予定 ・教員も述べ 20 名以上が行事に参加予定。地域・P T Aと連携を深めている。 | 地域行事の中で中学生ボランティアが活躍している姿は小学生にとって模範である。小学校を卒業してからも地域で活躍する人になろうという気持ちとを育てることができる。 | ○ |

3. 学校活動全般について

平成 2 5 年度：学力重点校、平成 2 6 ～ 2 9 年度：授業力向上校。平成 2 8 年度から児童の基礎学力定着と教員の授業力向上のために「学力定着指導員」の配置を受け、学力向上に取り組んできた。平成 29 年 4 月に実施した区学力調査の結果（学校全体の目標通過率）は、前年度の通過率を 20 ポイント上回るものとなった。安定した学級経営を行い、組織的・計画的な補充学習教室を年間通して行った成果と言える。3 0 年度は学力定着指導員の配置がなくなり、教科指導専門員（国・算）の拠点校となった。授業改善についての指導はこれまで同様に行うことができたが、補充学習や学力向上の具体的な手立てについて教員全員が一丸となって取り組んだが、さらに工夫や改善が必要である。

扇小学校の全ての児童が安心して楽しく学校生活を送ることができるように、また、勉強が楽しくなるようにと特別支援教室（通称名：わかくさ）を開設した。わかくさを利用する子供の困り感が軽減され、学級担任や専科が学習指導に専念できるように、保護者のご理解・ご協力を得ながら、特別支援教育の充実を図りたい。

「学習支援員」による個別指導や、3・4 年生で行っている「そだち指導」での個別指導は多くの子供の基礎学力定着に貢献している。同じ指導員がある程度の年数を継続して指導することにより、子供との信頼関係が増すとともに、その効果も増す者と考えている。

全ての学習の基本である「ことばの力」を高めることを意識して、担当する学年や教科での指導を工夫している。毎月の「俳句作り」も行うことは定着化してきたので、今後は作品内容のレベルアップに取り組むたい。図書ボランティアによる「読み聞かせ」は、定期的に開催できるようにさらなる増員を目指していく。そして、学んだことを人前で堂々と発表できるように発表する体験を増やしていく。これらのことが全教科の学習の充実に役立つと考えている。

「頭・心・身体」をバランスよく育てるために、これからも子供の現状を正しく把握し、必要な改善策を実施していく。また、平成 3 1 年は扇小学校創立五十周年にあたるため、母校や地域を誇りに思い、素直で活発な扇っ子たちが育つように、教職員が一丸となり、保護者や地域との連携を強化しながら取り組んでいきたい。

